

館林市子ども・子育て会議委員委嘱状交付式及び令和元年度第3回館林市子ども・子育て会議 会議録概要

1 日 時 令和元年10月17日(木) 午後1時30分～3時00分

2 場 所 市役所5階501B会議室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 12名

森会長、永井副会長、津久井委員、角田委員、大野委員、大塚委員、荻野委員、原委員、鎌田委員、川島委員、小澤委員、平林委員(以上名簿順)

【事務局】 15名

須藤市長

保健福祉部 : 中里部長

こども福祉課 : 木村課長、妻神子育て支援係長、萩本保育係長、恩田主任、砂賀

健康推進課 : 野澤課長、島田母子保健係長

学校教育課 : 上村課長、荒川学事係長

生涯学習課 : 武井課長、山口青少年係長

教育総務課 : 鈴木課長、折原総括係長

【委託業者】

株式会社ワイズマンコンサルティング 山口研究員

【傍聴者】 なし

4 議 事

(1)館林市子ども・子育て会議について

(2)第2期館林市子ども・子育て支援事業計画骨子案について

5 配布資料

・会議次第

・委員名簿

・館林市子ども・子育て会議について：[資料1](#)

・第2期館林市子ども・子育て支援事業計画骨子案：[資料2](#)

6 会議内容(概要)

(1)開 会

(2) 委嘱状交付

(3) あいさつ

須藤市長

(4) 自己紹介

出席者自己紹介

委員：関東短期大学教授。関東短期大学で子どもたちに関わる保育士及び幼稚園教諭を育てている。先週、館林市に子ども達を新たに大きな視点で受け入れてくれる総合相談窓口ができた。様々な方にご協力いただき、子ども食堂などを開催し、市民の皆様の意見をいただく機会があった。その際に市民の方から、市長が長い時間、市民の意見を聞いてくれたことは館林の魅力であるとの声をいただいた。子育てに関しても人間が持っている叡智でうまくコントロールし、次期の子ども・子育て事業計画につなげていければと思う。

委員：館林市区長協議会副会長。18年に教員を退いて20年から館林市区長をしている。計画書策定まで皆様と力を合わせ頑張っていきたい。

委員：主任児童委員の代表。主任児童委員というのは、地域全体の福祉に関すること、主に子ども関連、お母さん達の悩みや相談を受けている。関係機関の皆さまと連携して、この会議を通じて勉強したいと思っている。

委員：放課後児童クラブ代表。仕事を持っている家庭の子どもを放課後に預かる事業をしている。当初、学童クラブに関わった頃は、とにかく安全に預かれればいいという時代だったが、昨今は厚生労働省より、学童クラブにおいて子どもの育成に力を注ぐということを求められている。館林市は現在、学童クラブの待機児童ゼロであるが、もっと良い環境を作り出さないといいけないと思っている。この場で積極的に発言をさせていただき、行政側にアイデアを採用していただければと思っている。

委員：障がい児通園事業責任者。未就学の障がい児をお預かりしている。できるだけ障がい児も健常児と一緒に過ごせる機会をもっとつくりたいと思っている。また、障がい児の保護者の方もいろいろな悩みを抱えているので相談にのっていききたい。

委員：認定富士子ども園副園長。41年前に幼稚園として開園した後、保育が必要な子どもが多いことから認定こども園になった。楽しみながら子育てができるように、この会議で学んだことを活かしていけたらと思っている。

委員：東幼稚園園長。市内公立幼稚園で一番小さな園であるが、園長と子ども達・保護者の距離が近いことが園の良さだと思っている。だんだん保育園にニーズが向かっていると感じるが、幼稚園の良さをアピールしながら、皆で協力して子育てをしていければと思っている。

- 委員：第九小学校校長。今、学校だけでは子育てはできない、地域で子ども達を育てる時代になってきている。その中で地域と色々な連携をしてきているが、このような会議で皆さんと知恵を出し合って計画をたてているので、私達も協力しなければと思っている。
- 委員：館林私立保育園連絡会会長。群馬県保育協議会は、保育の無償化に伴い8/17に研修会を開催した。その際、各地区の子ども・子育て会議に勢いがなくなってきたという発言があった。館林市の子ども・子育て会議に関しては、各委員さんの立場から色々な意見があがっていて素晴らしい会議だと感じている。参加させてもらいありがたく思っている。
- 委員：美園保育園園長。美園保育園は7時から19時まで12時間開所し、現在園児数99名。大切にお預かりしている子ども達の生きる力を育てることを目標に、一人一人が楽しく活動できるような保育園がつくれればと願っている。また、園には支援センターも併設されていて、交流の場、育児相談の場としてたくさん利用者が来ている。安心して子育てができるような館林市になるよう願っている。
- 委員：館林市小中学校PTA連合会代表。まずは、台風被害への市の対応について感謝したい。明るい話題として、館林市の第四中学校の女子生徒が国体及びジュニアオリンピックにおいて100mハードルで優勝し、とても良い記録を残した。若い世代が頑張っていることを誇りと思っている。
- 委員：公募の市民。館林市民3年目、委員として2期目になる。終の棲家として館林を選んで良かったと思っているので、そのお返しとしてやっていきたい。先日、館林女子高校で行われた社会学者・上野先生の講演会において、「これから子ども達の生きぬく力をつけるには、多様性を受け入れてやっていかなくてはならない」と言っていた。大切な子ども達を育てていくためにも、市民として意見をしっかりと述べさせていただきたいと思っている。また、臨床心理士の資格を持っているので、この会議に役立てるような意見も出していければと思っている。

(5) 会長・副会長の選出

会長には、学識経験者である森静子委員、副会長には、会長の指名により永井純一委員が選任された。

(6) 議 事

①館林市子ども・子育て会議について

- ・委託業者より説明

【質疑応答等】

会 長：子ども達は大人の世界に自ら分け入ることはできない。この会議の中で支援事業計画を作成するわけだが、より子ども達の安心・安全と最善の利益が守られるような形を目指してつくっていければと思う。内容を見ていただき、資料2の説明を聞いた後に意見をいただきたい。

②第2期館林市子ども・子育て支援事業計画骨子案について

・委託業者より説明

【質疑応答等】

会 長：次回の会議（12月）までに資料の骨子案を読み込んでいただき、自分が感じた意見を次回の会議で発表するということでよろしいか。

全委員：了解

会 長：1期目で私自身が感動したのは、放課後子ども教室の事業のことが検討課題として入ってきたことである。今までの子ども・子育て会議の成果と思っている。この会議は、市役所の仕事をとやかく言うためではなく、子どもの最善の利益を守るための一つの大きな機会であるにとらえ、自ら提案していくのだということを認識していただきたい。館林市の子どもに関わる方たち全員が集まっているので、今までの経験を市民のために提案できるような流れにしていきたい。館林市で健やかな子どもがたくさん育つような子ども・子育て会議にしたいと思っている。

(7)閉 会